

残り30日 その3

センター試験への総仕上げの大切さは、最後の二日間の総復習です。この日のために重ねてきた学習を、もう一度総点検して試験に望むことが大切です。この日のために、チェックするノートを作成してきたはずです。このノートが今こそ生きるのです。

過去問のチェックや、模擬試験のチェックを付箋にまとめておいた仕事もここから生きるのです。その付箋をもう一度ノートに並べて、どんなことかをチェックしていくと、苦手な理由や、不得意の理由や足りていなかったことが意識されて、あと二日間でもう一度見ておくべき部分が浮かび上がってくるのです。

そして、このノートは、受験会場でも活躍するのです。例えば、試験前の1時間ぐらい、受験会場の控室でもう一度見返すことで、ここまでの道のりを思い返しながらか、ここまで頑張ってきた時間の積み重なりを自分なりに頼もしく思えてきて、自信のもとにもなるのです。

今まで、いろいろなことがあったその断片断片がノートから浮かび上がってきます。教員に質問したこと。悩んで悩んである日解けた問題であったこと。お父さんやお母さんとの会話の一部始終。夜中に食べた温かいおにぎりのこと。朝飲んだみそ汁の味。バスの中の人いきれ。一小の裏の坂道。温かい日差しや、雨の強いしぶき。もう一度よみがえってくる日々の思い出は、頑張ってきた毎日の誇りです。

遠い未来のことまで見通せなかった日々や、悔しかった大会が終わった後の毎日、英語の単語だらけになった暑い日々、涼しい風と焦りが一緒になってやってきた秋口、得点が伸びずあきらめかけて模擬試験の日々、吐く息が白くなり、みんなが懸命になり眼の色を変えた12月初旬。もう2か月早く始めていたらと思いつながら、今何とか間に合わせようとしている日々。

これらがいっぱいになって、1月16日と17日にもう一度よみがえるのです。お正月なんて言うてはいられません。今年のお正月は、3月10日以降です。

全国の同志たちとともに、ともに挑む全国大会なのです。人を蹴落として進むのも方策ですが、あくまでも人をリスペクトして、自分ができることを愚直に忠実に進めていきましょう。

センターが終われば、次がすぐあります。2次対策と私大入試です。それが終われば、前期試験・中期試験・後期試験。その後に来る追加合格まで、まだまだ予断をもっていくことはなりません。

最後の最後に笑うことが大切です。そこまで継続した学習が、次の大学生活にもつながるのです。

大学で学ぶということは、こういうことです。100年も200年も続く同じ道なのです。最後の最後まで気を抜くな。磐城高校生に未来あれ。